

グローバルスタディー（GS）Ⅱ in 2019 スタート！

スーパーグローバルハイスクール（SGH）事業最終年となる2019年のグローバルスタディー（GSⅡ）（高校2年生国際科）が始まりました。昨年度と同様に、「国際平和の実現」「医療支援の推進」「水環境の改善」の3つの研究視点から、自分の興味のあるものを1つ選び、その中で新たな研究班を編制しました。高校3年生まで継続される研究班の編制ですので、時間をかけてよく考えて班編制に臨みました。結果は下表のとおりです。昨年度からの研究を継続する者もいれば、新たな分野に挑戦する者もいます。海外フィールドワークやアカデミックツアーも先に控えています。どのような研究になるのか、今から楽しみです。



《2019年度 GSⅡ班編制》

「国際平和の実現」を研究視点とする班（平和班）	4班	25名
「医療支援の推進」を研究視点とする班（医療班）	7班	35名
「水環境の改善」を研究視点とする班（水班）	4班	20名

SGH講演会を開催しました！



5月8日（水）に、大阪府立大学現代システム科学域長の太塚耕司教授による講演会「ベトナム ハロン湾における環境活動について」を開催しました。今回で4回目となる太塚先生のご講演は、これまではSGH研究の水班のみを対象としていましたが、今回はその枠を取り払い、医療班や平和班からも参加しました。また、GSⅡの取組ではありますが、高校1年生や中学3年生からも関心を持つ人たちが参加しました。

講演に先立ち、本校の一ノ瀬先生から「文系と理系の壁を超えた社会課題」「Sustainable Development（持続可能な開発）」という2つのキーワードが提示されました。その後、太塚先生から、ハロン湾の特徴や、そこで行われている環境活動について、具体的な事例を交えてお話しいただきました。講演の中でも、地球温暖化の原因とされている二酸化炭素をこれ以上増やさない取組（カーボンニュートラル）や、現地の人々にとっての必要性（needs）を満たすこと、といった2つのキーワードに結びつく内容が次々と紹介されました。参加した生徒たちからは、「今ある課題に対して解決を目指すだけでなく、これから生きていく世代の人々に何をしよあげるべきなのかを考えさせられた」「文系と理系の枠を超えた社会課題を積極的に解決していこうとする姿勢は大切だと思った」（高校生）「世界の問題に立ち向かうためには理系の人でも文系の人も一緒に物事を考えていく必要があるのだと強く感じた」（中学生）といった感想が聞かれました。講演の後には、数名の生徒が質問をし、中には「なぜ他の植物ではなく、マングローブを植樹するのか」というハロン湾での環境活動の核心に迫る質問もありました。



今回の講演を聞いて、私たちを取り巻く課題（グローバルイシュー）に対して、「文系・理系の枠を超えた」「持続可能な」解決策を生み出そうと、研究に対する生徒たちの関心と意欲はますます高まったようです。